

令和8年 4月13日

学校名 鈴鹿市立天栄中学校

学校長名 山中 喜宏

令和8年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	つながりを大切にして、自ら学び続けるこどもの育成 ～生徒が深く学ぶための教師の見とり、支援～
教科・領域	全領域

2 主題設定の理由

本校は、天名地区、合川地区、栄地区、郡山地区、そして、平成28年度に通学区域弾力化が実施されたことにより加わった稲生地区の5つの小学校区からなる、生徒数420名程度の中規模校である。本校の生徒の様子は、人間関係の構築の苦手さが課題としてあげられる。前述の小学校区のうち、4地区の小学校で児童数が少なく、単学級となっている現状がある。小学校の6年間では人間関係の変化が少なく、自分を出すことができたこどもたちも、中学校では新たな人間関係の構築にとまどい、委縮してしまうことが少なくない。クラス替えや班替え等、人間関係が変化する際に不安を訴える生徒は多い。このような現状を踏まえ、本校ではお互いを認め合える「つながり」を育むための取組（承認活動）を組織的に行うことや、自分の考えを出し合い、仲間とともに探求することができる協働課題の設定による授業改善に継続的に取り組んできた。昨年度は「つながり」を作る授業づくりや承認活動の実施は継続しながら、一人ひとりの個の学びに注目して、個の学びが充実する視点を取り入れて授業づくりを進めた。さらに、校区でリーディングDXスクール事業を受けるにあたり、「自ら学び続ける生徒の育成」という校区の共通の目標を立て取組を行った。成果としては「わからない」をオープンにできる雰囲気の中で生徒同士が教え合ったり助け合ったりする姿が多く見られるようになった。その中で自ら主体的に学び、行動する姿も多くみられるようになった。しかし、学習意欲や学力層によって「自ら学ぶ」姿勢に顕著な差があるといった課題も見えてきた。一人では取り組めない生徒への支援の必要性や学びを実現するためには生徒同士や教師と生徒との安心感や信頼感のある関係性

を作ることの重要性を再認識した。

以上のことから、今年度は教師の見とり、支援に視点をあて研修を行うこととした。これまで取り組んできた端末の活用、複線型授業、自由進度学習など多様な手立てや授業形態の中で、生徒の個の学びや協働課題を通じて生徒同士がつながっているかを見とり、適切な支援や手立てを行う中で、生徒が進んで深く学ぶことができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

◆取組の柱

(1) 安心して学校生活を送ることができる「つながり」をつくる

- 困った（わからない）が言える、想い（考え）を伝え聴き合えるつながりをつくる
- ・つながりを意識した承認活動（全学年共通）
- （ふれんどカード、天栄アプリシエイターズ、つづり作文、クラスの中の自分等）

(2) 自ら進んで主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組

- 誰も取り残さないための教師の見とり、支援を追求
- ・全員が1人1回は公開授業を実施し、授業の生徒の学ぶ様子から、生徒が深く学ぶための教師の見とり、支援（手立て）について考える
- 教科部会を充実させる
- ・生徒が主体的に深く学ぶことができる課題設定や授業形態を考える
- ・教科で深く学ぶための教師の見とり、支援（手立て）を追求

◆具体的取組

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

- ・UDの視点に立った配慮（UDフォントの使用、教室掲示の工夫）
- ・全教職員年間1回の公開授業実施
- 6、9、11月公開授業（後継事業）、公開授業ウィーク
- ・校内研修における授業実践交流会、教科部会の設定
- ・全国学力・学習状況調査およびみえスタディ・チェックを活用した授業改善
- ・鈴鹿市「安心して学べる学校を目指して」アンケートの実施および分析

(2) 安心感、信頼感をもった「つながり」による人間関係の構築

- ・「つながり」を育む取組の組織的な実践
- 仲間づくりの取組（ふれんどカード）
- 生徒間での承認活動の導入（天栄アプリシエイターズ、「クラスの中の自分」）

<p>つづり作文の実施、レジリエンス（非認知能力）を育む授業（全5回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営、生徒支援、生徒指導の視点での校内研修の実施 ・具体的な目指す「つながり」の全教室提示 <p>(3) 生徒が主体的に参加できる学校活動づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動における生徒の主体的な活動の推進 ・室長会を中心とした生徒の主体的な活動の推進 <p>(4) 生徒の心を支える体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期における教育相談の実施 ・いじめアンケートの実施・対応 ・あい教室の運営 ・スクールカウンセラーおよび関係機関との連携 <p>(5) 幼小中連携による学びのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習のてびき」の活用 ・校区夏季学習会および校区教職員連携会議（育ちの部会・学びの部会）の開催 ・新入生への春休みの宿題の取組（学びよつなぐれ！プロジェクト）
--

4 年間研修計画

	主 な 取 組
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修概要説明（研修主題、研修方針の説明・自分化シートで個人目標設定）（3日） ・保健対応生徒研修会（3日） ・「つながり」を育む取組「ふれんどカード」実施 ・シラバス・家庭学習のてびき・天中目指すつながりの共有（各教科、各学年説明） ・全国学力・学習状況調査の実施（国語・数学・英語・理科）
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・みえスタディ・チェックの実施（1、2年生） ・第2回校内研修会（「生徒が深く学ぶための見とり、支援とは？」教員交流） ・学校教育目標、年間指導計画提出
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・みえスタディ・チェックの分析と対策 ・体育祭を通しての承認活動（つづり作文等）の実施 ・第1回授業公開ウィーク実施（8～12日） ・第3回校内研修（30日） →公開授業 後継事業（3名公開（市内・校区）） 講師：谷内祐樹教授（信州大学）
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回校内研修会（1学期の自分化シート振り返り）（7日） ・第1回学校アンケート実施（生徒・教師）

	<ul style="list-style-type: none"> ・承認活動「天栄アプリシエイターズ」の取組実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区研修会（育ちの部会・学びの部会）の開催 ・全国学力・学習状況調査の分析・考察 ・第5回校内研修会（24日）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」を育む取組「ふれんどカード」実施（夏休み明けバージョン） ・郡山小学校公開授業参加（後継事業） ・第6回校内研修会（15日） <ul style="list-style-type: none"> →公開授業 後継事業（3名公開（市内・校区）） 講師：谷内祐樹教授（信州大学）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回校内研修（生徒支援、生徒指導の視点）（7日） ・第1回学校アンケート実施（保護者） ・文化祭を通しての承認活動（つづり作文等）の実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回校内研修会（17日） <ul style="list-style-type: none"> →公開授業 後継事業（4名公開(市内・校区)） 講師：谷内祐樹教授(信州大学) ・研修課題に関わる先進校の視察
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の自分化シート振り返り→3学期の目標設定（職員会議） ・第2回学校アンケート実施（生徒・教師） ・天栄アプリシエイターズ実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回校内研修会（研修年間振り返り（生徒の様子から成果と課題検討）） ・学校評価、関係者評価のまとめ、学校運営協議会での報告 ・第2回みえスタディ・チェックの実施 ・第2回授業公開ウィークの実施（25～29日）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山小学校公開授業参加（後継事業） ・来年度の研修について検討・協議 ・承認活動「天栄アプリシエイターズ」の取組実施 ・小中連携「学びよつながれ！プロジェクト」の実施 ・みえスタディ・チェックの分析と対策
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・承認活動「クラスの中の自分」の取組実施 ・シラバス、年間指導計画の見直し ・第10回校内研修会（来年度の研修について、自分化シートの振り返り）（12日）